

笛吹市まち・ひと・しごと創生総合戦略 KPIに係る取組への評価

基本目標 主な取組	目標		現状値	H31目標値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	取組の評価	外部有識者の評価	今後の方針	今後の方針の理由
			(H26年度)										
1. 結婚・妊娠・出産・子育てまで継続的なサポートをする	合計特殊出生率		1.55	1.58	算定中	算定中				観察	出生数と出産可能年齢女性数の関係により、一概に悪くなったとは言いがたい。すぐに成果の上がる取組ではないため、継続的な取組を望む。また、出生数並びに出産可能年齢女性の増加に寄与する取組について検討を行うこと。	取組の継続	結婚、妊娠、出産、子育てと子どもを持つ環境の整備と支援を引き続き行い、まずは出生率より、出生数に注視し取り組む。
① 働く女性の支援	地域子育てクラウドシステム利用者数	人	0	300	5	175				評価できる	今後、人口に占めるデジタルネイティブの割合が拡大することを考えると、この事業の拡充は大変意義のあるものと考えられる。スマホアプリとして公開されてからまもなく、評価が困難ではあるが、機能を拡充し多機能化したことは評価できる。子どもを持つ家族全員に活用してもらえるよう周知に力を入れること。	取組の継続	子育てに必要な情報発信を充実させながら、結婚、妊娠、出産、子育てと子どもを持つ環境の整備と支援を引き続き行う。
② 結婚につながる機会の創出	結婚相談事業や出会いイベントによる成婚数	件/年	0	4	0	0				観察	すぐに成果の挙がる取組ではないため、引き続き取組むことを望む。市の人口増、特に出生率上昇には欠かせない取組のため、今後の創意工夫を望む。	取組の見直し	市結婚相談員による結婚相談は継続し、出会いイベント、セミナーの運営については民間業者に委託するなどし、県外女性等への情報発信力を強化する必要がある。
③ 子育てへの支援	合計特殊出生率		1.55	1.58	算定中	算定中				観察	出生数と出産可能年齢女性数の関係により、一概に悪くなったとは言いがたい。すぐに成果の上がる取組ではないため、継続的な取組を望む。また、出生数並びに出産可能年齢女性の増加に寄与する取組について検討を行うこと。	取組の継続	結婚、妊娠、出産、子育てと子どもを持つ環境の整備と支援を引き続き行い、まずは出生率より、出生数に注視し取り組む。
④ 未来を創造する教育の充実	学校が楽しいと思う児童の割合	%	87.8	90.0	85.5	86.3				評価できる	人口流出を防ぐためには、大切な施策と考える。子ども達の時間の大半は、学校で費やされることから、今後早期達成への取組を期待する。	取組の継続	継続して調査を行うことで、充実した学校生活を送る児童の状況を把握し、学校教育ビジョンの具現化を図る。
2. 地域の資源を活用し、地域産業を育み、新たな産業を創出し、雇用を創出する	年間宿泊者数	万人	129	140	154.8	142.6				評価できる	年間宿泊者数の目標値は達成されている。基幹産業の一つである観光客の減は、笛吹市の「雇用」と「税収」に繋がることから、年間宿泊者数の増加に向けた取組を行うこと。	取組の継続	広域連携による体験型ツーリズム(サイクルイベントやワイナリー巡り)の浸透を図るとともに、年間を通じて楽しんでもらえる観光地を目指す。
	認定農業者数	人	710	830	826	930				評価できる	平成31年目標を達成し評価できる。桃・ぶどう日本一継続のため、継続的な取組を望むとともに、次世代に繋がる取組に期待したい。	取組の継続	地域農業者の中核となる認定農業者を経営支援・認定を推進することにより、経営農地耕作地の維持を図る。
① 外国人も楽しめる観光地を構築	宿泊客数	万人	129	140	154.8	142.6				観察	目標値は、超えているものの前年度を下回っている。基幹産業の一つである観光客の減は、笛吹市の「雇用」と「税収」に繋がることから、原因の追究を行い、年間宿泊者数の増加に向けた取組を行うこと。また、広域連携を図り、県内滞在時間を増やす取組も望む。	取組の継続	広域連携による体験型ツーリズム(サイクルイベントやワイナリー巡り)の浸透を図るとともに、年間を通じて楽しんでもらえる観光地を目指す。
	うち外国人宿泊者数	万人	10	15	17	12.9				観察	前年度及び目標値を下回っている。観光客の減は、笛吹市の「雇用」と「税収」に繋がる。外国人宿泊者数増に向けた事業へのテコ入れは必要と考えるが、現在の事業を継続的に必要とする。外国人旅行者のニーズに合わせた取組や通年を意識した観光PRの展開を望む。	取組の発展	Wi-Fi設備や外国人観光客用マップを活用し、訪れた人に実際にまちを歩いてもらう仕組みや取組が必要である。
② 好循環農業に向けた支援	新規就農者・新規就農後継者数	人	24	40	18	16				観察	認定農業者が増加していることから、今後の取組に期待する。新規就農に繋げ、「桃・ぶどう日本一」維持と継続の取組に期待したい。	取組の継続	県内・市内の果樹農家等への新規就農者の就農・定着を図るため、今後とも担い手支援策を推進。
	農業生産法人設立数(累計)	法人	25	35	26	28				評価できる	安定的な農業経営に寄与し、就農者の増加に繋がる可能性があることから、増加は評価できる。雇用確保の観点からも、更なる支援と法人設立増加を期待する。	取組の継続	意欲のある農業者が本格的な農業経営者へと成長し、更なる経営発展を図ることができるよう、農業経営の法人化等を推進。
③ 地域産業の振興を支援	新規商店の出店数(累積)	店	0	25	4	7				評価できる	商店の新規出店が増えたことは、地域の活性化、雇用の観点から評価できる。観光客のみならず、まちの活性化に繋がることから更なる出店を期待する。	取組の継続	サテライトオフィス助成事業等と鑑みながら、空き店舗対策と併せて中で、商店街の活性化を図る。
	広域連携による経済の活性化	広域ツーリズム	種	0	1	7	7			評価できる	県及び近隣市町村との連携により目標を遥かにしのぐ数値に達したことは評価できる。更なる地域間連携による魅力の創出と広域ツーリズムの拠点としての活性化に努めることを望む。	取組の発展	DMO構想という考えに照らし、今後も広域で連携し、その相乗効果を得ることが非常に重要である。

外部有識者の取組の評価

「評価できる」： 数値目標を達成しているもの、目標値に対し順調に推移しているもの、取組として前進したもの
 「観察」： 短期的に成果が現れないもの、新たな取組みに着手しこれから成果が現れるもの、情勢に左右され中長期的な視点で評価することが望ましいもの、目標値は達成しているものの前年度を下回ったもの
 「不明」： 実績数値の増減の原因が良く分かっていないもの、また、その原因の追求の必要があるもの
 「評価できない」： 取組の進捗が無いもの、取組の成果が現れないもの

今後の方針

「取組の継続」： これまでの取組を引き続き行うもの
 「取組の発展」： これまでの取組を生かし、新たな取組みに着手するもの
 「取組の見直し」： これまでの取組を見直し、検討しなおすもの
 「取組の中止」： 数値結果として現れず、取組を中止するもの

笛吹市まち・ひと・しごと創生総合戦略 KPIに係る取組への評価

基本目標 主な取組	目標		現状値 (H26年 度)	H31目標値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	取組の評価	外部有識者の評価	今後の方針	今後の方針の理由
3. 誰もが暮らしやすいまちをつくる	転入者数－転出者数(転出抑制)	人	-246	-126	-95	-201				観察	昨年度に比べ人口流出が増えている。また、若年層の人口流出が多く、将来の人口に大きくかかわってくる。当該世代の流出原因の追究を進めるとともに、転出超過に向けた対策を講じることを望む。	取組の見直し	生産年齢人口及び年少人口の転出超過が前年に比べ大きい。人口減少に大きく係ることから、当該世代の転出抑制に係る施策を検討する。
① 災害に強い地域づくりを推進	自主防災組織への簡易無線整備率	%	0	100	0	0				評価できない	0%であり、その取組については評価できない。地域の安全・安心につながり、転出者減、転入者増に繋がる可能性があることから、早期目標達成を望む。	取組の見直し	簡易無線については、携帯電話・スマートフォンを利用した通信手段も検討していく。
	市営バス利用者数	万人	3.0	3.3	3.1	3.2				評価できる	微増であるが評価できる。高齢者等における運転免許証自主返納事業を含め、高齢者の増加に伴うニーズは増えると予想されることから、更なる利用者増に向けた取組を望む。	取組の継続	市民、特に高齢者等のいわゆる交通弱者の日常生活に必要な移動手段として必要なバス路線の運行(生活の足)を維持確保することは大変重要であり、今後も引き続き、現場の声を起点に改善を積み重ね、地域における望ましい公共交通ネットワークの構築を図る。
② 誰もが活躍できる地域の交流づくりを推進	二地域居住・お試し居住利用者	件/年	0	5	0	0				観察	芦川にお試し居住を開設したことは評価できる。今後の利用状況を見ながら、移住希望者のニーズにこたえられるよう、様々な地域でお試し居住できる環境の整備を期待したい。	取組の継続	芦川のお試し住宅の利用状況により、別地区への整備を検討する。
	地域活動を担うグループ	団体	0	20	5	9				評価できる	団体・グループが立ち上げられたことは評価できる。今後、更に増え、地域活性化に寄与し、人口増に繋がるよう取組を期待する。	取組の継続	地域振興促進助成金を活用した団体を協働による地域づくりのパートナーとみなし、引き続き担当部局との連携維持に協力する。
4. 笛吹市を知り、訪れ、住んでみたくなる流れをつくる	転入者数－転出者数(転入促進)	人	-246	-126	-95	-201				観察	転入者の減は、将来の人口に大きくかかわってくる。転出の状況から、若年層の流入に向けた取組を期待する。	取組の見直し	転出数は、前年度とほぼ同じであるが、転入数が15%減となっている。移住定住や企業誘致など転入者を増加させる施策の推進に努める。
① 移住定住の促進	移住者	件/年	2	5	0	4				評価できる	空き家バンクを活用した移住者が4件であったことは評価できる。笛吹市の利便性は、県内他市に比べ群を抜いていると思われる。空き家登録への取組を進めるとともに、お試し居住を含め、今後の取組に期待したい。首都圏等でのブース出展だけでなく、インターネットを活用したPRの取組も期待する。	取組の継続	東京などでの相談会を増やし、移住先の候補地としての認知度を高める努力をする。
② 企業誘致活動の推進	サテライトオフィス入居希望団体	団体	0	5	0	0				観察	サテライトオフィス等促進事業を始めたことは評価できる。この施策の結果が現れるまで時間がかかると思われ、今後の活用状況について観察し、評価を行う。働き方改革やワークライフバランス等を鑑み、「ハコ(空き事務所)」⇒「告知・周知」⇒「フォロー」の継続的な取組や個人向けのシェアオフィス等への取組も期待する。	取組の継続	平成29年度「サテライトオフィス等促進事業」を新たに実施する。補助金の利用申請の状況により、拡充の予定。

外部有識者の取組の評価

「評価できる」： 数値目標を達成しているもの、目標値に対し順調に推移しているもの、取組として前進したもの
 「観察」： 短期的に成果が現れないもの、新たな取組みに着手しこれから成果が現れるもの、情勢に左右され中長期的な視点で評価することが望ましいもの、目標値は達成しているものの前年度を下回ったもの
 「不明」： 実績数値の増減の原因が良く分かっていないもの、また、その原因の追求の必要があるもの
 「評価できない」： 取組の進捗が無いもの、取組の成果が現れないもの

今後の方針

「取組の継続」： これまでの取組を引き続き行うもの
 「取組の発展」： これまでの取組を生かし、新たな取組みに着手するもの
 「取組の見直し」： これまでの取組を見直し、検討しなおすもの
 「取組の中止」： 数値結果として現れず、取組を中止するもの